

釣れ釣れなるままに

2004年思い出の釣行記 PART.

芦別川釣行

鹿島釣狂

♪お久しぶりね

女房がバトミントンの大会に出かけた。私は釣りへといつものパターンである。川の下り口へのボコボコのアスファルトの上に青大将が寝そべっていた。石ころを投げて促して

☆釣行日 平成16年8月7日(土)
☆入釣場所 芦別川 頼城付近
☆天候 30度を超す熱帯夜が幾日も続いた
☆エサ ブドウ虫
☆釣果 ニジマス 360mm以下20匹

もなかなか立ち去ろうとはせず、あまりの暑さに呆然としている様子である。

11時には、例の赤い橋の下から釣り下っていった。ニジマスがポツンポツンと出たが、大物は来ない。途中の深みで36cmが来た。さらに、下流に下っていくと流石にここまでは釣り人が入っていないのかアタリが続いた。5時、終了する。川に落ちた如く全身汗でずぶ濡れの状況で芦別のラーメン店に立ち寄り夜飯を食べてから帰宅する。

女房はバトミントンの仲間との飲み会に出かけた後だった。

往路は上砂川から炭山川に抜け、復路は国道を利用したがさほど時間的には変わらない。砂利道の狭い道路を行くのは交通事故が心配になるので差し控えたい。

釣り人が増え魚がいなくなった

☆釣行日 平成16年9月12日(日)
☆入釣場所 芦別川 玉川地区
☆エサ ブドウ虫
☆釣果 ニジマス 35cm:1 30cm:3 25cm以下:14

台風一過

9月9、10、11日と全道校長会研究大会が伊達市で開催され参加した。道中、林の中の太い大木が軒並み薙ぎ倒されてなど台風18号の爪痕がそこかしこに残り、改めて風の脅威を感じるようになった。又、8日にとった臨時休校の措置は間違いがなかったと安堵した。

台風一過、秋晴れの1日、10時半に芦別川に向かう。玉川地区の最初の駐車帯には2台の車が駐車されており、至る所に形の違った先行者の足跡がついているので入釣を躊躇った。一つ先の駐車帯には枯れ葉マークの車が1台駐車しており、川原に下りたところで釣り上げた魚を処理している御仁がいた。川っ縁の浅瀬には内臓を抜かれた40cm近いニジマス2本と25cmに満たないものが数匹横たわっていた。芦別川の様子を聞いてみる。

「5年前程から釣り人が増えて、芦別川に魚がいなくなった。今日も、朝からこの下流に2台の車が入っており、今は引き上げたようだがここにも車が一台置いてあった。私は20年ほど芦別川に通っているが昔はたくさんの魚がいたものだ。そこに見える荒瀬もよい淵だったのだがすっかり様変わりしてしまった。過去に45cmを頭に40センチ以上は何本もあげているが、最近は40cmを超えることがなく、今日の獲物がせいぜいである。雨が降った後がよく、6月初旬の雪解け水が治まった頃が、ダム湖から遡上したニジマスの大物が一番よく釣れる。」と丁寧に教えてくださる。

20年も通って45cmが最高だとすると、2年前に私があげた50cmを超える2本の獲物は、本当にラッキーだったとしか言いようがない。たまたま条件が重なり、私が来るのを待っていてくれたのだろう。

寄る年波には勝てず

その御仁が言っていた下流に向かうと、やはりトロ場がなくなり急な流れがそのままの勢いで一気に流れている。案の定、魚のアタリは一つもなかった。上流に向かう。はじめの瀬のトロ場で35cmのニジマスが出た。道糸をキンキンと響かせ久しぶりに大物の感触を楽しんだ。

淵の脇の大岩の上を飛び越えていると足下の岩が動き、バランスを崩して体が傾いた。

若い時であれば体が傾く前に反応し体のバランスを修正しながらすぐ近くに下りることが出来たであろう。しかし、この時はすぐには体勢を立て直すことができず、このままでは頭から水の中に突っ込み川底の岩に頭をしこたまぶつけることになるかと判断し、岩を蹴って足から着水することができた。頭で考えて判断したというよりは危険を察知し咄嗟に体が動いてくれたのだ。ということは、まだまだ若い証拠だろう。しかし、岩を蹴ったために勢い余って深いところにまで届き、ズボンと体が水の中に沈んでしまった。流れが穏やかですぐに這い上がることもできたことと、胸元がピタッと締まっているウエィダーだったために中まで水が入ることなく事なきを得た。だが、さすがにベスト等の上衣はびしょ濡れになった。芦別川は切り立った崖下のため電波圏外になるので携帯電話は入釣の時に車に置いてきたのが正解であった。ベストの中のものを全て取り出して岩の上に置き、濡れた衣類は固く絞って同じように岩の上に広げておいた。天気がよいためノースリーブの下着はそのまま着て釣り続けた。たまたまそこに魚がいたのか釣れ続け、アタリが遠くなる頃には下着も乾いてきた。乾いたタバコに火をつけ、多少湿った上着を着込んで次のトロ場へと移動した。

1 匹の重み

途中の淵で流していると、ドタンと車のドアの閉まる音が聞こえ、頭上から小石が落ちてくる。崖を振り仰ぐと、2、3名の釣り人がこちらの様子を覗き込んでいる。その崖は中腹が抉れており彼らが覗き込んでいるところはせり出しのところである。危険を知らせ私は崖下からすぐに避難する。5時をまわり夕暮れ時間帯となったので引き返し始めると、下流から先程の釣り人と思われる5名の方々が、手に、手にフライ竿やルアー竿を持ち、近づいてくる。挨拶を交わし、釣果を訪ねると今ここで釣り上げたホウライマスが1匹と言ひ、歓声を上げている。釣果ではエサ釣りに敵わないが、魚1匹を釣り上げる喜びに勝っているのだろう。

堰堤を魚は遡れるか

☆釣行日 平成16年10月17日(日)

☆入釣場所 芦別川 西芦別市街地裏

☆エサ ブドウ虫

☆釣果 ニジマス 30cm以下 4匹

10月16日(土)道中研究大会(岩見沢)

美穂が北大でバスケットの試合があり、岩見沢の自宅に泊まるという。「朝、送ってほしい」と都合を聞いてきたので、1パイ飲みながら夕食を一緒にとろうと約束する。創作料

理店「やす」で、教育実習やバスケット部の様子を聞かされた。

次の日、娘を幌向のセブンイレブンに送ってから、砂川に帰宅した。女房がバトミントン仲間と豊富温泉に出かけていたので、昼から芦別川に向かう。

西芦別市街地はずれにある廃品集積所横に駐車し河原に下りる。初めて入ることになるが溪相はよい。しばらくアタリは出ない。魚の気配が感じられないので玉川地区に向かうかと考えはじめていた時アタリがあり30cm程のニジマスが出た。さらに上流に向かう。アタリはいっこうに出ないまま川幅一杯に広がった堰堤に出る。高さが2メートルぐらいだが水が少なく、よっぽど大水がでないかぎり魚が上流に向かって遡ることは出来ないだろう。先日の釣りでご老人から「水かさが増したときに下流のダム湖から魚がのぼってくる。その時がねらい目である。」と聞いたがすぐには肯くことが出来ない。

堰堤の上から堰堤下に打ち込みを続ける。25cm程が2匹出た。さらに上流に向かうが途中、函になっていてそれ以上は私が遡ることが出来なくなり入釣場所に向かう。最初にニジマスが釣れた場所で同じようなニジマスが出た。釣果は4匹だったが満足してその場を後にした。釣果はフライにして食べたが身の色が赤かった。

釣果なし

☆釣行日 平成16年10月25日(月) 13時から16時

☆入釣場所 芦別川 サキペンベツ川

☆エサ ブドウ虫

☆釣果 なし

日曜参観日による振替休日だったために芦別川を目指したが、川が白く濁っているのでサキペンベツ川に向かう。最初の入り口から入釣する。釣り下った後、さらに釣りのぼったが、アタリが一度も出ないまま終了した。川原を進むと2度ほど川岸の落ち葉の影からニジマスが出てきて流心に向かった。この時期魚はいないのか。